

発達障がい研修（保育士経験5年目以下対象）

受講者総数 328名

期間 令和4年5月13日（金）・9月8日（木）・10月5日（水）令和5年2月7日（火） 計8回

場所 足立区子ども支援センターげんき 研修室3

講師 心理士：前川圭一郎氏、藤原彩子氏

【内 容】

保育士5年目以下の保育者を対象に『気になる子どもかかわり方』『イメージの育ちについて』『保護者への支援』などをテーマに講義やグループワークを通し、様々な配慮や視点について考え、日々の保育実践に繋げていくことをねらいとする研修です。午後の部、夜間の部と開催することで参加しやすい体制を整え、園長や園務主任などにも聴講生として受講していただき、園内で情報共有できるようにしました。

【受講者の感想】*** 研修で学んだことを保育にどう活かしていきますか**

・子どもの気になる行動を話し合い、保育者のかかわりを変えたり、環境を整えたりしていく。園全体で子どもの姿を共有し、様々な対応を行い子どもの困っている事を助けていく。保護者面談では、保護者に感謝を伝えると共に“すてきなところ”を伝え、“おいしいところ”を踏まえ保護者の思いを引き出していく。共通の目標を持ち喜び合える関係を築いていく。

・子どもについて考える時にはただ子どもの姿を見るだけではなく、私たちの対応や子どもの反応も含めて整理することを心がげる。子どもの残念なところについて目がいってしまうが、惜しいところに言い直すことで前向きな支援や保護者との会話に繋げていく。また、その子のためどのような支援が必要か考える過程にもしていく。

・「できている」場面を見つけて、どのような状況、場面でできているのかを判断して活かしていく。・子どもが出来ていることに目を向け、褒めるとともに、褒める場面を作ってあげ、成功体験を増やせるようにしたい。子どもは私たちとは全く異なる考え方をしているかもということを入念に入れて保育をする。

・スモールステップで子ども自身が少しずつ行えるように保育を行っていく。また、褒めていく中で子どもの行動を具体的に伝えていく。さらにシェイピングゲームを通し、指示はより具体的に分かりやすく伝えることが必要であることを感じた。実践していきたい。

・できないことを担任同士で分解して考え、より良いかかわり方を考え、実践していく。マジョリティ側にいるからこそ、その子が何で困っているかを改めて考え直し、職員同士で共有し、かかわり方を見直していきたい。

・環境に焦点をあてて障害を克服するのではなく、困り感をどう軽減させていくかという視点で考えていく。何が分からない、困っている、できないという時に具体的にどこで躓いているのかを知り、援助していく時に課題分析していきたいと思った。良い行動も悪い行動も対応によって増えていくことも学び、ABC分析を活かし対応の仕方を考えていきたい。